

平成20年度 岡崎市高校生海外研修報告書



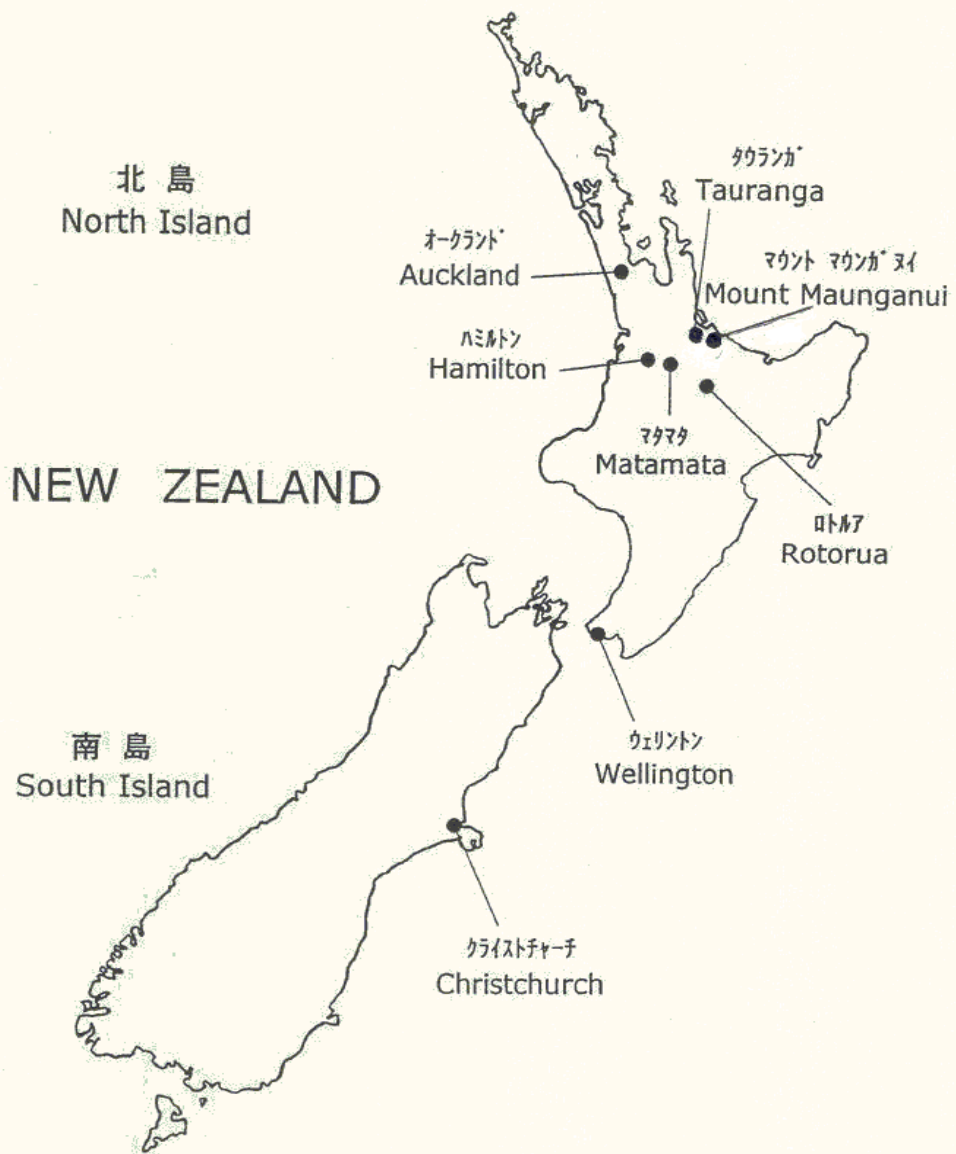
期 間：平成20年7月27日(日)～8月5日(火)
研修先：ニュージーランド・タウランガ市

岡崎市

目次

ニュージーランドの地図	P 3
日程表	P 4
研修参加者報告書	P 5
研修参加者名簿、受入団体、取扱旅行者、お世話になった方々	P 5 2
ホストファミリー	P 5 3
タウランガ市の概要	P 5 4

表紙写真：マウンガヌイ（マウアオ）山頂にて 2008/7/3 1



H20年度岡崎市高校生海外研修日程

	月 日	日 程	備 考
1	7月27日 (日)	7:00 岡崎市役所発 市バスでセントレア空港へ 10:00 SQ671便にてシンガポールへ 15:50 チャンギ空港着 21:10 チャンギ空港発、SQ285便でオークランドへ	(機中泊)
2	28日 (月)	10:45 オークランド空港着 入国手続き 12:45 オークランド空港発 ランチストップ 16:00 Mt.マウンガヌイカレッジ着、ホームステイ先へ	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
3	29日 (火)	午前 Mt.マウンガヌイカレッジ英語研修 午後 語学学校訪問 地元商店街見学	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
4	30日 (水)	午前 Mt.マウンガヌイカレッジ英語研修 午後 オマヌ小学校訪問	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
5	31日 (木)	午前 Mt.マウンガヌイカレッジ英語研修 午後 マウンガヌイ山登山	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
6	8月1日 (金)	午前 Mt.マウンガヌイカレッジ英語研修 午後 ベイフェア見学	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
7	2日 (土)	終日 ホストファミリーと行動 18:00 さよならパーティー	ホームステイ (Mt.マウンガヌイ)
8	3日 (日)	9:00 Mt.マウンガヌイカレッジ発 11:10 ロトルアへ移動、ロトルア観光 16:00 ホテル着、チェックイン 18:00 マオリショー観賞	ホテル泊 (ロトルア)
9	4日 (月)	6:30 オークランドへ 9:45 オークランド空港着 12:25 SQ286便にてオークランド空港発 19:10 チャンギ空港着	(機中泊)
10	5日 (火)	1:05 チャンギ空港発SQ672便にてセントレア空港へ 8:35 セントレア空港着 市バスで岡崎へ	

コミュニケーションの取り方

岡崎商業高校 2年 鍋島 実苗希

今回のホームステイは、私にとって、2度目の経験となるものでした。前回、ホームステイをした時、私は、帰りたくて仕方がありませんでした。でも、今回の研修は、とても楽しく、思い出に残るものとなりました。ホストファミリーは、とても親切で、優しく、温かい人たちでした。お父さんのテリーは、ゴルフが趣味の家族思いな人。お母さんのスーは、料理上手で、心の温かい人。長女のアシュリーは、13歳で、とっても可愛くて、活発な女の子。長男のベンは、12歳。ラグビーをやっていて、ちょっとシャイな男の子。ゴールデンレトリバーのリンカーンと、コジーという名の猫。そんな4人と2匹の住む、笑いの絶えない楽しい場所で私のNZ生活は始まりました。



<スー&ベンと一緒に>

今回のホームステイでの、1番の思い出は、ベンとアシュリーと一緒に折り紙をした事です。小学校を訪問した日の晩御飯の後に、「折り紙教えてくれる？」と聞かれました。「折り紙持ってないけどいい？」と聞くと、「これでもいい？」と言いながらレポート用紙を持ってきました。レポート用紙を正方形に折って、切って...『羽ばたく鶴』『風船』『六角形』を折りました。『六角形』は、3人で協力して2つ、『風船』は、ベンが1人で折れるようになりました。次の日にはアシュリーが、『羽ばたく鶴』と、『ハート』の折り方を、メモを取りながら覚えていました。何度も何度も、練習して、1人で折れるようになっていました。会話はほとんどなかったけど、とても楽しかったです。

次に心に残っているのは、スパゲッティを作った時の事です。日本の家とは勝手が全く違う場所での料理に、とても緊張しました。テーブルのセッティングをしてくれたり、サラダを作ってくれたり、みんながとても協力的で優しくて、感動しました。材料も調理器具も日本のものとは違うし、家で作る時と比べたら、上手じゃなかったと思うけど、みんなが「おいしい。」と言って食べてくれ、アシュリーとベンは、お代わりまでしてくれて、本当に嬉しかったです。

3つ目の大きな思い出は、ホストファミリーと1日過ごし、さよならパーティをした日です。午前中、ベンのラグビーの試合を観に行き、その後、私が行きたいと言っていた2ドルショップや、他にも沢山のお土産屋さんに入れて行ってもらいました。さよならパーティでは、スピーチも原稿を読んでしまったし、よさこいとさくらも、間違えてしまったし...いい所なんてほとんどなかったと思ったけど、終わってから、スーが、「実苗希、とっても良かったよ。カッコよかった。」と言ってくれて、とても嬉しかったです。



<さよならパーティで>

4つ目は...スーの言ってくれた、「また来てね。」という言葉です。初めてその言葉を言ってくれたのは、私がスパゲッティを作った日でした。初めは、「ご飯を作り、また来てね。」という意味も込めて、2度目は、ホストファミリーと過ごす、最後の日に、アフタヌーンティーを飲みながら、「いつでもおいで。」と言ってくれました。嬉しくてたまりませんでした。



< Mt . Maunganui College >

他にも、アシュリーと一緒にやった、『ジグソーパズル』、アシュリーと一緒に『マフィンを作った事』、オマヌ小学校を訪問し、『小学生と一緒に遊んだ事』、一緒に遊んだ小学生に『手紙を書いた事』、梨央と卓大に会った、『スポーツジムに行った事』、Mt .Maunganui Collegeで『パンケーキを作った事』、みんなで『Mt . Maunganui に登った事』、梨央、梨央のホストシスターのブライア、アシュリー、ブライアとアシュリーの友達、そして私の5人で行った『ショッピング』、Mt . Maunganui Collegeでのエイミーの『授業』、スーと、テリーのお母さんのネナと、3人で『Mt .Maunganuiの横の小さな島に登った事』、初めて飲んだ『ホットチョコレート』、ベンが最後に、恥ずかしがりながら『ハグしてくれた事』、ロトルアで見た『羊ショー』、『マオリショー』、楽しい思い出がとっても沢山出来ました。そのどれもが、会話なんてほとんどない、でも、笑顔の絶えない時間でした。そして、全てが、私の大切な『宝物』となりました。また、コミュニケーションとは、会話をするというだけではない事、コミュニケーションの取り方は、色々ある事を学びました。会話が出来なくても笑顔になれる事、言葉が通じなくても理解し合える事…。沢山の事を学ぶ事が出来ました。



<羊と一緒に>

英語 がもっと出来るようになってから、もう1度コックラン一家を訪ねたいと思います。会話をする事だけがコミュニケーションではないけれど、今回よりも、もっと上手に、自分の意思を伝え、相手を理解出来るようになれば良いと思いました。これからも、コックラン一家との、コンタクトを続け、また、NZに行ける日が来る事を、願っています。

今回の研修では、両親を始め、兄妹や、セラ、純子さん、久美子さん、エイミー、岡崎市役所職員の方々。色々な方にお世話になりました。本当にありがとうございました。今回この研修に参加できて本当に良かったです。楽しい研修を、本当にありがとうございました。

ホストファミリーとすごした10日間

豊田西高校 1年 加藤 卓大

7月2日 ついにその日がやってきました。

シンガポール経由での長いフライトで、心身ともに疲れ果てましたが、やっとの思いで着いたニュージーランド。空港から外に出てみると、日本とはまったく違う世界が広がっていました。広々とした緑の大地の中に、たくさんの牛や羊たちが放牧されていました。そして空がとても広く、ビルのような高い建物がほとんどありませんでした。思っていたとおりに自然が豊かで空気がとても新鮮でした。

その日の夕方、ホストファミリーとの初対面。私のホストファミリーは、ホストマザーと、同じ歳のキアヌと、二つ下のティアリーの3人家族でした。対面場所からの車の中では好きなスポーツは？とか、趣味は何？など、積極的に話しかけられました。すこし緊張していたのが、家族みんなで温かく迎えてくれたおかげで、ホッとした気分になりました。家に着いた後、すぐに日本から持って行ったお土産を渡したところ、筆ペンをさっそくうれしそうに使ってくれました。一緒に漢字を書いたりしましたが、ひらがな、カタカナの説明をするのにとても苦労しました。日本に興味を持っていたのか、「この漢字の意味は？」や、「これは、日本語でなんて言うの？」など質問攻めでした。でも私の下手な英語を、一生懸命聞いて理解してくれ、わかりやすい文章で話してくれるなど、とても優しい家族でした。

その後、家の近くにあるビーチに行きました。ビーチから眺めは、今まで一度も見たことのないような世界でした。透き通るようなきれいな海、夕日に染まった山は、どれをとっても、まさに絶景でした。そして何よりも、静かな波の音が、私の心を癒しました。夏には、カヌーやサーフィンをやるのが、正しいニュージーランドの過ごし方だそうです。



ビーチから見たマウンガヌイ山

次の日から、英語研修が始まりました。

この研修は、岡崎からの仲間だけのクラスでしたが、ゲームをやったり、先住民族のマオリ族についてなど、日本学校の授業とは全く違いました。特に文章を早く作る練習などあったので、勉強になりました。研修以外にも、いろいろな所へ行くことができました。

三日目の小学校訪問では、二年生の子供たちが、日本から持って行ったおもちゃにとっても喜んでくれました。ひとつひとつのおもちゃの遊び方を説明するのにとても苦労しましたが、身振り手振りで何とか伝えることができました。たった 1時間という短い時間でしたが、とても仲良くなれました。



小学二年生のマウイの子（似ている？）

その日の夜は、プールに連れて行ってもらいました。着いてまず驚いたのが、屋外プールだったこと。季節は冬なので、水着に着替えるのも寒さのあまり体が震えて一苦労でした。しかし、温泉プールだったので水は温かく、塩分を含んでいたもので、しょっぱかったです。この食塩を含んだ温泉プールは、世界に二つしかないうちの一つで、大変貴重な体験しました。プールと言っても温泉のようで、ゆっくり浸かりながら、日本やニュージーランドについて、いろいろ話をしました。ここでやっと、家族の人たちとうち解けあってきたと思いました。

そして最後のお別れパーティーの日……………。

パーティーは、盛大に行われました。私たちが用意した、踊りや歌もうまくいき、また、他のホストファミリーとも、話をすることができ、隣に座っていた、同じぐらいの歳のことも友達になることができました。その子と別れる時も「See you my Japanese friend」と言ってくれたので、すかさず私も「See you my New Zealand friend」と返しました。ちょっとしたことでこれだけ仲良くなれたのが、とても不思議でした。

翌朝、ついにホストファミリーと別れる日がやってきました。せっかく慣れてきて自分の英語も少しは上達してきたのに、もうすぐ別れてしまうと思うと、とても悲しくなりました。島や街、プール、ジムなど、いろいろな所に連れて行ってくれたホストファミリーに感謝したいと思います。ホストファミリーからマオリ族のお土産をもらった時には、すごく驚きました。私がお礼をしないといけないのに、向こうから「Takudai thank you!」と言われた時には、少し涙ぐんでしまいました。キアヌから今度は夏に来て一緒に海で泳ごうと言われたので、絶対に行くこと約束をしました。この約束がある限り、私とホストファミリーとの友情は途絶えないと思います。



ホストファミリー

この10日間、ニュージーランドのさまざまな物に触れ、いろいろなことに興味を持って視野を広げることができました。想像以上、期待以上に感動、感激を味わうことができ、また、つたない英語ながらなんとかコミュニケーションをすることで、特に不自由なく過ごすことができました。このような貴重な体験ができたのも、ホストファミリーや岡崎のたくさんの方々のおかげだと思います。さらに英語を上達させ、もう一度ニュージーランドを訪れ、ホストファミリーと再会したいです。



生まれたばかりの羊の子

ニュージーランドの思い出

豊田西高校 2年 加藤 渚

最初はとても不安でいっぱいだったニュージーランドのホームステイだったけれど、一緒に行った友達やホストファミリーなど、たくさんの人に助けてもらいながら過ごしたこの10日間は、私にとって本当にかげがえのない思い出になりました！

1日目

飛行機を乗り継ぎ、約1日半かけてニュージーランドの空港に着きました。思っていたよりも気温が低くて、寒いなと感じるほどでしたが、天気は晴れ！空は青くて高くて、すごくきれいと思ったのがニュージーランドの第一印象です。

そこからバスでこれから4日間通うMt.マウンガヌイカレッジへ向かいました。そこには私のホストファミリーが迎えに来てくれていました。私のホストファミリーは学校の先生をしているとても優しいパパと陽気で気さくなママ、そして私より1個上の女の子です。皆私の慣れない英語を一生懸命聞き取ってくれて、しゃべり掛けるときは優しい言葉でゆっくり話してくれていつも気にかけてくれて、本当の家族のように接してくれました。

ホームステイの家はとても大きく、たくさんの牛を飼っていました！家の中は暖炉があってすごくかわいい感じでした。



私のホストファミリー

2日目

朝からホストシスターのケルシーの車で学校へ行きました。そこで英語研修を受けた後、語学学校へ行きニュージーランドに住んでいるたくさんの外国人の人たちのお話を聞きました。そして家に帰るとホストマザーのキャレンとケルシーが私をお買い物に近くのスーパーまで連れて行ってくれました。初めて見るニュージーランドのスーパーはいろんなものがビックサイズだなと思いました。

3日目

この日は雨と風がすごくて台風みたいでした。そんな中、朝の研修後、近くにあるオマヌ小学校に行きました。日本の遊びとして折り紙を紹介したとき私がポケモンのピカチュウの作り方を教えてあげると皆ポケモンを知っていてすごくよろこんでくれました！こんなところまで日本のアニメが有名だなんて知らなかったので、すごくびっくりしました。



オマヌ小学校の子と



ケルシーとお友達のジスト

夜はケルシーにレインというお店につれていってもらいました。

ケルシーのお友達5人と一緒にたくさんお話をしました。みんな明るくてかわいくて、すごくおもしろい人たちばかりで、私もすぐ溶け込むことができとても楽しい時間でした！

4日目

朝、英語研修を受けた後、Mt.マウンガヌイに登りました。登るのはちょっとしんどかったけど、頂上からの景色は本当にきれいでした。山を登っている途中には羊が放牧されていて、すごく近く見ることができて、さすがニュージーランド！と思いました。

そして夜ごはん！この日は私がお好み焼きを作りました！ホストファミリーは慣れない手つきでお好み焼きを私がお土産で持ってきた箸を使って食べてくれました。みんな「すごくおいしいよ」と言ってたくさん食べてくれました。キャレンはお好み焼きのお返しと言って、

ニュージーランドの代表的なデザートである“アップル克蘭ブル”というスイーツを作ってくれました。それがすごくおいしかったです。

夜ごはんの後、私はニュージーランドで有名なホットプールに連れて行ってもらいました。ホットプールの水は海水でした！ホストシスターのケルシーはトライアスロンをやっていて、泳ぐのは得意らしかったです。



Mt.マウンガヌイの頂上から



Mt.マウンガヌイのふもとで

5日目

最後の英語研修を受けた後、大きなデパートに買い物へ行きました。日本では売っていないようなお菓子とかアクセサリーなどが売っていてすごく楽しかったです。

この日の夜の空がすごくきれいでたくさんの星がありました。私はこんなにたくさんの星空を見るのが初めてだったのですごく驚いていたけど、ニュージーランドでは普通のように日本との違いを感じました。

6日目

この日はホストファミリーとすごせる最後の1日。

朝からケルシーのサッカーチームの試合を見に行きました！そのグラウンドの隣ではニュージーランドで最もポピュラーなラグビーの試合もやっていました。

午後からはさよならパーティーでした。私たちはスピーチと日本で考えてきたパフォーマンスをしました。そのパーティーの後、家に帰るとケルシーがおそろいのキーホルダーをくれました。

その時「渚が来てくれて本当によかった。絶対また遊びに来てね！」って言ってくれたのは今でも忘れられません。本当にホームステイ先がこの家族でよかったです！

最後に

このニュージーランドの派遣は私にとって本当に思い出に残るものになりました！大変だったり、困ったりすることもたくさんあったけれど全部がすごくいい経験になりました。この10日間はすごく早くて、すごく楽しいことばかりでした。本当に良い思い出ばかりで、私はニュージーランドが大好きです！また絶対行きたいなあって思います。これも私を支えてくれた周りのみんなやホストファミリーのおかげです。本当にありがとうございました。



みさきちゃん クローイケルシー なぎさ 仲良し4人組

10日間の Kiwi 生活

光ヶ丘女子高校 2年 若杉 梨央

オークランド空港の外へ1歩出た瞬間、私は“New Zealand にやっと着いたんだ！”と実感しました。それと同時に、心の底から何か新鮮で、でもなつかしく、わくわくした気持ちがあふれ出てきました。

“バスに乗って、マウントマウンガヌイカレッジへGO！”

少し窓を開けて冷たい風を肌で感じながら、私は host sister の Briar はいったいどんな子だろうと想像していました。出発前、私は2, 3回メールを交換していたので、彼女の顔や趣味を少しは知っていました。でも、実際に会うとなるとやはり、落ち着きませんでした。そんなことを考えている間に、マウントマウンガヌイカレッジへ到着。



私の host family.

さあ、私の host sister はどこだろう？”

私はバスの中で立って、窓から目をきょろきょろさせていました。Briar と host mother の Marg が私を迎えにきてくれました。2人を見つけたときは、安心、緊張、そして会いたかった気持ちがぐちゃぐちゃになっていました。背が高く、大人っぽい Briar と初めての Hug。

その夜、私は日本から持ってきたプレゼントを家族にわたしました。みんな珍しがって、とても喜んでくれました。日本での私の生活、岡崎、行事を紹介するために作った私特製のアルバムも見せました。Briar と Marg は、気に入ってくれて熱心にみていて、“これは、何？”とよく質問をしてきました。2人が特に興味を持ったのは、浴衣と七五三のときの着物でした。驚いたのは、Briar が喜んだものが筆ペンだったことです！これには、私もびっくり

しました。彼女に愛、平和、楽の漢字を教えてあげました。Marg が楽の漢字を見たとき、“まるで踊っているみたいね！”と言いました。私が日記を書いている間、Briar は隣でずっと一生懸命に筆ペンで漢字を書く練習をしていました。



おしゃべりな host sister の Briar と私

Briar が授業を受けている間、私はイギリス人の Ammie 先生の授業を受けていました。授業といっても、机の上で何時間もホワイトボードに書いてあることを写すのではなく、体を動かしてゲームをしたり、意見を交換し合ったりする時間でした。なので、私は Ammie 先生の授業をととても楽しむことができました。



Host brother の Seth と Host sister の Briar

語学学校へ行ったときは、さまざまな国の人達とお話する機会がありました。台湾人の子は、日本という国に興味を持っていたし、サウジアラビア人の子はフレンドリーで、おもしろい人達ばかりでした。日本では、あまりこのような機会を持つことができないので、最初はとまどったけれど、話し出したら話が止まらなくなりました。



語学学校で会った生徒のみなさん

多くの楽しい思い出の中で私の1番は、Briarに Dress Up してもらったことです。まずは、ネイル。お風呂場でマニキュアを塗ってもらいながら、お互いの学校生活のことを話しました。私達は多くの違いを発見し、Briarは、特に日本の学校に Dep Ball というダンスパーティが無いことにとてもショックを受けていました。次は髪の毛。よく友達の髪をセットしているらしく、手馴れた手つきできれいにしてもらいました。このあとは、いよいよ顔。

“いい肌の色だね。”と Briar。

“でも、日本人は、白い肌にすごくあこがれるのだよ。”と私。その言葉に

“なんで?!”

とまた Briar は驚いていました。最後に服を借りて、写真をたくさん撮りました。疲れたけれど、Briarのことをより知ることができた貴重な時間でした。



英語の授業をしてくれた Ammie

間違いを恐れる前に、まずは1歩ふみすすむ。これが今回、私が強く思ったことです。チャレンジ意欲は、すごく大切な power だと感じました。お世話になった Ammie 先生、くみこさん、純子さんそして一緒に行った派遣団のみなさんありがとうございました。素晴らしい Kiwi Family に出会えたことや彼らに“ここはあなたのもうひとつの家だよ”と言ってもらったことは一生忘れません。New Zealand にも、私の大切な Family ができました。早くまた遊びに行かなくちゃ

初の海外 in NZ

西尾東高校 1年 水野 美咲

私は、今まで海外に行った事はありませんでした。飛行機にも乗った事がなくて、今回の研修は私にとって初めての体験が多いものでした。英語にも自信がない私はとても不安でしたが、一緒に行った仲間のおかげで頑張れたし、とても楽しむ事ができました。

海外へ

朝早くに起きて市役所に行きました。この時はまだ、なんとかなるだろう、きっとなんとかできると思っていました。

セントレアに着いて、荷物が重くて心配になったけど特に何も無かったのでホッとしました。いよいよ飛行機に乗って、日本を出ました。飛行機の中は狭くて、すごく不便でした。

ずっと曲を聴いて、歌って、不安をまぎらわしていました。

チャンギ空港に着いて、もう日本語は通用しないと思うとすごく怖くなりました。

でも、仲間と一緒に居てくれたから楽しかったです。そして時間をつぶして、また飛行機に乗って、今度はオークランドへ行きました。お昼を食べて、ホストファミリーと会う為に、Mt.マウンガヌイカレッジへ行きました。

そこで、皆ホストファミリーと帰って行きました。私は不安と緊張で押しつぶされそうでした。

ホストファミリーの家に着くと、ホストマザーは仕事だからと言って出かけていきました。私は一人テレビを見ることになりましたが、もちろん全て英語で放送されていたため、何を言っているのか分からなくて、とても退屈でした。

そこへ、ホストシスターのクローイが帰ってきました。でも、ダンスがあるからと言ってすぐに出かけて行きました。

結局、私はまた、一人でテレビを見ることになりました。

少ししたら、ホストマザーが帰ってきて、二人で買い物に行きました。当たり前だけど日本と全然違ってとても楽しかったです。



ホストファミリーと

NZで

NZに到着した次の日から学校へ行って英語の授業を受けました。英語が得意ではない私は普通の学校の授業以上に頑張っで必死でついていこうとしました。

それでも、やっぱり分からない事が多くて、仲間に頼ってばかりでした。

学校でランチボックスを食べて午後は語学学校へ行きました。

ランチボックスは、お菓子とフルーツがほとんどで、やけに量が多く見たことが無いようなお菓子が多かったです。皆で回したりしてとても楽しく食べられました。



ランチボックス

語学学校には、日本人も居て、私は日本人とばかり話をしていました。
タバコも日本とは違って、自分たちで巻いていて、ビックリしました。

演劇！？

語学学校からMt.マウンガヌイカレッジに戻って、クローイを待っていました。
そしたら、裸足のクローイが来てくれて、演劇の練習場所へ連れて行ってくれました。
そこには、クローイの友達が居て、戸惑っている私に話しかけてくれました。
でも私は、何を言われているのか理解できないでいました。
すると、「少しだけど、日本語話せるよ。」と言って、私と日本語で話をしてくれました。そこで、NZでは、15歳から車の免許が取れ、運転できるという事を知りました。
その日の夜、ホストファザーと、ホストマザーと一緒に昼間練習していた演劇を見に行きました。何を言っているのかは分からなかったけど、すごいなぁと思いました。
演劇が終わって、クローイは友達と、ホストマザーは知り合いと話をしていました。
私が一人どうしたらいいのか分からず困っていたら、昼間私と日本語で話しをしてくれた友達が、「大丈夫？」と聞いてくれました。
自分でもよく分からないけど、泣きそうになりました。でも、笑って「うん」と言いました。
この日私は、人の温かさを改めて知る事ができました。



演劇の会場

小学校訪問

2日目は、午後からオマヌ小学校へ行きました。
日本の歌を歌い、英語の歌を歌ってもらいました。その後、質疑応答をして、小学生と、折り紙をしたりして遊びました。やっぱり英語はよく分からなかったけど、とても楽しく過ごすことができました。



小学生と

まとめ

今まで、どんなことも、なんとかなる。なんとかしてみせる。と思ってきたけど、そう思えるのも、私を支えてくれている家族や友達が居るからなのだと改めて気づく事ができました。今回の研修も、仲間が居てくれたから、笑って頑張れたのだと思います。これからは、私を支えてくれている家族や友達に感謝していきたいです。

私はこれから、もっともっと勉強を頑張って、もう一度NZにいて、今度はちゃんと英語で会話をしたいです。

NZでふれたあたたかさ

岡崎北高校 1年 中田 望月

海外へ行くのは初めてだった私にとって、この研修は驚きの連続でした。海外研修前日、不安でいっぱいだった私にとって一緒にいくメンバーと純子さんの優しさは心の支えでした。

<ホストファミリーと対面>

その人がホストマザーのジャスティーンはすごくきれいな人でした。とても優しく、片言の英語でも聞き取ってくれて、私が理解出来ていない時は違う言葉に言い換えて何回も説明してくれました。ホストシスターのナディアはかわいくて、ジャスティーンと同じように優しかったです。ホストブラザーのリヴァはかっこよく、ホストファザーのポールとはあまり話すことができななかったけど、優しく笑う人でした。黒猫のタイガーもいました。



ホストマザーのジャスティーン、ホストシスターのナディアと対面したとき

<1日目>

いとこの家につれていってもらい、かくれんぼをしました。楽しそうだったのでよかったです。家に帰ってから日本のお土産を渡すと喜んでもらえて、すごく嬉しかったです。お土産の紹介をしたかったけど、何を言っているかわからなく、十分話せなくて自分のふがいなさを感じて悔しかったです。

<2日目>

学校の後、語学学校を訪問しました。お菓子をもらったり写真をとったりして楽しかったです。帰宅後は家族とリヴァの彼女でご飯を食べに行きました。家に帰ってから部屋にいる

とジャスティーンが来て「Are you ok?」と聞いてくれて、嬉しかったです。シャワーを浴びていいか聞くと、「ここはあなたの家なんだからそんなこと聞かなくていいんだよ。」と言ってきて、嬉しかったし、感動もしました。「もう寝るね。」と言うと湯たんぼのようなものを用意してくれて、人のあたたかさを感じました。



学校へ行くときに持たせてもらったランチ

< 3日目 >

この日はナディアの体調が悪かったので、リヴァと一緒に学校に行ってくれました。小学校訪問では小学生と仲良く遊ぶことができよかったです。最後には手作りポーチと手紙をくれて感動しました。家では晩御飯にお好み焼きを作りました。ホストファミリーはおいしいと言ってきて、お代わりまでしてくれました。夜はリヴァの部屋でリヴァとナディアとたくさん話をしました。日本の歌を聞かせてあげたり、NZの歌を聞かせてもらったりしました。英語をいっぱい使うことができ、充実していました。



ホストブラザーのリヴァ、ホストシスターのナディアと家で

< 4 日目 >

朝、歩いてバス停まで行くと、緑が多くて、気持ちよかったです。学校ではパンケーキを作りました。登山をする山の近くの海にはごみがなくて日本もこうなったらいいなと思いました。家ではテレビのスポンジボブをナディアと一緒に見ました。晩御飯は手巻き寿司だったので作るのを手伝いました。中身がチキン、きゅうり、アボカド、キウイ、にんじんという不思議な組み合わせでした。

< 5 日目 >

昼ごはん食べたフィッシュチップはすごくおいしかったです。学校が終わってからナディアと一緒に折り紙をしました。楽しんでくれていたみたいなのでうれしかったです。5時からナディアのネットボールの試合を見に行きました。ネットボールはバスケットボールのようなもので、日本にはないスポーツなので見ていて楽しかったです。ナディアの友達は何回も話しかけてくれました。

< 6 日目 >

リヴァのラグビーの試合を見に行きました。初めて見たけどおもしろかったです。その後、ナディアの友達が出て一緒にゲームをして遊びました。すごく充実した時間でした。さよならパーティーはすごく悲しかったです。みんな泣いていて、最後だと思うと涙が止まりませんでした。しかし、パフォーマンスやスピーチはうまくでき、ホストファミリーに喜んでもらうことができたのでよかったです。家に帰ってからは、手紙とペンダントをもらいました。すごくうれしかったです。その後、写真をとったりビリヤードをしたりしました。すごく楽しくて、早く過ぎてしまった時間でした。充実した時間を過ごすことができ嬉しかったけど、最初からこんな風に過ごしたかったなと後悔もしました。



パンケーキを作ったときに一緒に行ったみんなと

<お別れ>

最後の日、リヴァは仕事があったので、前日の夜にお別れをしました。ナディアは最後には泣いていて、私も涙が溢れてきました。ジャスティーンとポールは笑顔で送り出してくれました。別れはすごくつらくて、悲しかったけど、新たな1歩が踏み出せたような気がしました。

<ロトルア>

みんなで行ったロトルアでは観光という感じで楽しむことができました。マオリの文化を学ぶことができ、羊も間近でみることができ、いい思い出を作ることができました。一緒に行ったメンバーともたくさん話すことができ、かけがえのない仲間ができました。

<最後に>

今回の研修では英語に向かう姿勢をかえることができました。いつかもっと英語を使えるようになり、電子辞書なしでも会話できるようになってからまたホストファミリーに会いに行きたいです。NZではたくさんの出会いがあり、たくさんのあたたかさにふれることができました。この体験ができたのは、家族、ホストファミリー、市役所の方、純子さん、久美子さん、支えてくれた全ての方のおかげです。本当にありがとうございました。

ありがとう Parkes family

岡崎北高校 1 年 山田 美里

私は昨年、岡崎の姉妹都市であるアメリカのニューポートビーチ市に親善訪問に行きました。そこで、人との交流において、こちらから心を開いて積極的に話しかければ、向こうも心を開いてくれるということを身をもって体験しました。それで、その経験を生かし、更に視野を広げたいと思い、この研修に参加しました。



大好き Parkes Family

ところが、初めてホストファミリーに会った時、相手の話す英語が理解できない自分にあせんとしました。昨年の経験から英語にはある程度自信があったのですが、アメリカと違いNZ特有のなまりがあまりに強かったからです。なんとか会話をしようと思えば思うほど、あせりが出てしまい、ますます理解できないという悪循環に陥ってしまいました。これではいけないと気をとりなおして、冷静になってみると、英語ができないと思われたくないという思いがあることに気づきました。もっと冷静になろうと肩の力を抜いて接しているうちに、少しずつ理解できるようになってきました。すると、心がつながったと感じられるようになりました。それからは、辞書やジェスチャーで、積極的に話しかけました。そうするうちに、だんだん楽しい時間が増えてきました。

ある夜、ホストシスターの Rebecca と友達について話しました。Rebecca が水球をしているということで、そのメンバーの写真を見せてもらい色々なことを話してくれました。とても楽しくてお互いに笑ってばかりいました。こんな楽しいひと時が過ごせるとは、初日に諦めないで良かったと思いました。



ホストファミリーの Rebecca と

私はからだ中で、 ああ幸せ と思う瞬間が時々あります。その感覚がNZで何度もありました。笑顔のホストファミリーに囲まれているとき、NZの雄大な自然に見とれているときなどの、何気ない瞬間にやってきます。そんなとき、このような素晴らしい経験ができた事に感謝の気持ちでいっぱいになりました。やはり今回も 諦めずに、積極的に行動することが大切だと改めて学ぶことができました。

マオリについて

私は、マオリの人々のことを知り、とても勉強になりました。NZにマオリという先住民族がいると聞いた時、偏見をもたれているのではないかと思いました。しかしそれは全く違いました。ホストシスターとマオリについて話していたら、NZの人々がマオリ人を大切にしていることが伝わってきました。また、ロトルアで実際にマオリの人たちとふれあい、NZにおいてうまく共存しているなと感じました。素晴らしい国だと思いました。私は、去年、生徒会活動の一つとして お互いのよさを認め、良い人間関係を築く という活動を行ってきました。そして、その意義を実感してきました。NZの人々とマオリ民族との間に、その考えが浸透していると感じ、素晴らしいと思いました。こういった考えがどんどん広がっていけば、今ある紛争や民族問題などもなくなり、きっと世界中が平和になっていくと思います。私は、このようなことを常に頭におき、世界平和を目指せるひとになりたいと思いました。



マオリショー

ファミリーについて

私は、この体験でもう一つの家族を得ることができました。それほど、ホストファミリーは親切で、私を家族の一員として温かく接してくれました。ホストファザーの Rob は、いつも私に素敵な笑顔で接してくれました。不安なことがあっても Rob の笑顔を見たら、頑張るぞ！！と前向きな気持ちになれました。ホストマザーの Trish は、いつでも私のことを気遣ってくれました。私が楽しく過ごせるように、色々と考えてくれました。ホストシスターの Ashleigh は、いつも優しく、NZ の文化などを親切に教えてくれました。ホストのおかげで、色々なことを知ることができました。Ashleigh との一番の思い出は、ビーチと一緒に Running したことです。景色はとてもきれいで、ゴミもなく素晴らしい所でした。走っているうちに、以前からもう何年も友達であったかのような気がしました。ホストブラザーの Josh は、いつも笑顔であいさつしてくれました。元気をもらいました。ホストシスターの Rebecca は、いつも愉快地に接してくれました。冗談を言い合ったりして話しているうちに、まるで本当の姉妹のように思えました。Rebecca の楽しそうな表情に、



夕食を一緒に作りました

いつも元気づけられました。本当に素晴らしいファミリーでした。ここまで、充実した日々を送ることができたのは、このファミリーが温かく見守ってくれたからだと思います。こんなにも素晴らしい経験ができたこと、素晴らしい人々に会えたことに感謝したいです。ここで学んだことを忘れずに、今後の生活に生かしていきたいです。そして、英語の力を伸ばし、もっとペラペラ喋れるようにして、必ずホストファミリーの家に行き、より高い交流ができるように、日々努力していきたいです。



Tris Ashleigh Rebecca と一緒に

NZに行って思えたこと

御津高等学校 1年 塩原 理菜

7月27日、私は初めてのニュージーランドに沢山の不安と期待を抱えながら降りた。そもそも、私が今回の OIA 海外派遣に応募した理由は言葉が通じない場所、家族の助けが無いなかで自分の英語力を試してみたいと思ったからだった。

ニュージーランドに向かう飛行機に乗っている間、ホームステイのことや英語研修のことなどを考えていたが、行った事の無い土地や会ったことの無い人達のことを思い浮かべるのは難しく「家族になじめなかったらどうしよう」「私なんかの英語が通じるのかな」など、マイナスな事ばかり考えてしまい、NZに着く頃には不安と緊張の2つが頭の中を駆け回っていた。

長かった飛行機の時間も終わり、空港からバスでいよいよタウランガに出発！

NZは緑が多く、丘や森、草原といった自然を中心に町ができていた。

蒸し暑い日本の夏とは季節が逆なのもあり、空気がすごく澄んでいて冷たい風が私をかすめて通り過ぎていった。そしてふと見上げた空が日本よりもすごく高く感じ、「NZに来たんだ！」と感動してしまった。馬や牛などの家畜も沢山いて全体的に平坦で横長な、のんびりした風景が広がっていた。



オマヌビーチで

空港から約4時間バスに揺られホームステイ先の家族が待っているという学校に向かった。途中、昼食にランチバーに寄ってアップルパイを食べたが日本のアップルパイとは少し味が違い、何よりも大きかった事が印象に残っている。

皆がグッドホール久美子さんに呼ばれ、自分のホストと挨拶をしているのを見て、上手く挨拶できるかな、と更に不安の波が押し寄せてきた。この時がNZ滞在中の緊張とドキドキの最高潮だったと思う。

その時、何故か駐車場に意識が向かった。別に意識して向いた訳では無かったが私は駐車場に入ってきた一台の車をジーっと見つめていた。その車から降りてきた女の人と女の子2人を見た時、ホストの顔を見たことの無い自分だったが直感的に「あ、私のホストだ」と分かった。私を迎えに来てくれたのはお母さんのデボラ(デビー)と11歳のダニエル、8歳のチェルシーの3人で何て声をかけようか悩んでいた私にダニエルが「Rina! I'm Danielle! Nice to meet you!」と声をかけてくれた、それに続いてチェルシーが「Rina! My name is Chelsea!!」と言ってくれて少し緊張がほぐれ自分も自己紹介が出来た。

家に着くまでの車の中では、チェルシーがデビーの携帯電話を貸してもらってゲームをやらせてくれたり、ダニエルが自分の携帯電話を見せてくれながら「友達は新しいのを持っているから早く換えたい」と言ってデビーに「高いから仕方無い」と軽く小突かれていた。その後、日本から持ってきた自分の携帯電話を「これが日本の携帯電話だよ」と見せてあげるとダニエルとチェルシーが目を見つめながら「見せて!」と言って来たので渡してあげると2人して興味津々に開いたり閉じたりを繰り返していた。それを見て、どの国でも新しいものや自分が持っていないものには興味があるんだなぁと思った。実際、自分もダニエルの携帯電話を見て、日本ではもう見る事の無い形態にちょっとした驚きと興味を持った。

家に着いてから、ダニエルとチェルシーに誘われてトランプをやった。その後、日本から持っていったキティお土産を2人に渡すとすごく喜んでくれて嬉しかった。

晩ご飯の時にお父さんのディーンが帰ってきて「Oh! Rina!」と言い、いきなりジョークをとばしてきたのには正直対応に困ったが楽しい家族なのだ、と思いホッとした。

その時に驚いたのが家族みんなでテーブルを囲んで食べない事だった。

みんな自分が食べられるだけよそいテレビのある部屋に移動し好きな場所に座って個人で食べる。日本では食事の時にテレビを見ない家もあるのに・・・と生活習慣の違いを感じさせられた。そして、就寝時間の早さにも驚かされた。子供達の就寝時間はなんと7時30分!!! 日本で7時30分就寝なんて、滅多に無い早さでかなりびっくりした。

2人が寝てしまった後デビーとディーンに呼ばれ日本のことについて色々聞かれた。少し驚いたけれど、すごく嬉しくて2人の質問に自分の知っている限りを一生懸命答えた。遠く離れた国でも日本のことに興味を持ってきている人がいるのだ、と分かり感動した。

翌日、初めての英語研修はデビーと一緒に学校に行った。ダニエルとチェルシーは小学校で降りて「じゃあまた放課後ね！」と手を振りながら友達の方へ走って行った。英語研修のAmmieは優しく面白い先生で、授業もとても楽しかった。昼食はデビーが作ってくれたサンドウィッチとシリアルバー、林檎。メニューよりランチボックスが20 アイスの容器だったのには驚いた。日本は見た目を重視するが合理的というか細かい事をあまり気にしない文化だ。

午後からの語学学校訪問では色々な国から沢山の人が学びに来ていた。日本人もいて笑顔で迎えてくれた時、嬉しさと同時にみんな一生懸命英語を勉強しているんだなと思ったら自分も頑張らなきゃと改めて思うことが出来た。

三日目、台風到来。私たちのNZ到着を待つかのように台風が発生し、ずっと雨が降っていたがこの日は今までにないくらい酷い雨風だった。校舎に来るのにも、みんなびしょ濡れで靴下や上着を乾かさなければいけないほどの横殴りの雨だった。でも台風以上にびっくりした事がある。こんな日、NZの子供はなんと靴を履かないで学校に行く。日本で靴を履かずに学校に行くなんて常識的に考えて絶対に無い。しかも今は真冬なのだ。国による文化の違いが多すぎて毎日驚いてばかりだなと思った。

午後は隣に建っている小学校訪問。小さい子ばかりで上手く教えられるのか？と心配していたけれど実際始まってみると紙風船ではしゃいだり、折り紙に苦戦したりで自分も一緒に楽しめた。帰る時、一緒に遊んだ子から手紙と手作りの小さな籠をもらった。手紙を見た時、嬉しくて涙が出そうになってしまった



小学校の子と一緒に

翌日はマウンヌガヌイ登山。雨で中止になるかもしれない……。殆どあきらめていたのにここに来て初めての晴天。良かった！登山は思ったより疲れたけど羊の放牧を眺めながら、ふと視線をはずすと町が小さく見えた。やっとの思いで頂上に登り下を見ると思っていたよりも高く、山の真横からずっと向こうまでビーチの形が絵葉書のようにはっきり見え、その綺麗さに感動した。

そして驚きと感動の連続の最後はさよならパーティー。久し振りに制服を着て、出発直前まで考えていたスピーチを持って家を出た。車の中でホストファミリーがマオリ族のお守りネックレスをくれた。「これから日本に帰る間、そして日本に帰ってから、ずっとこの先、理菜の身に危険が無いように祈っているよ」と言って首にかけてくれた。

日本で練習してきたよさこい・二人羽織・桜合唱・スピーチ全てが大成功に終わった。チラッとテーブルを見るとチェルシーが泣いていた。その時、明日でみんなとお別れなのだ、と改めて実感してしまい思わず涙が出てしまった。

そして遂に出発の日、荷物を車に積み家族全員で初めに迎えに来てくれた学校に行った。これで本当に最後なのだと思うと、自然に涙が滲んできて、半分泣いている私にデビーは「また来てくれるのを待ってるからね」と言って優しくハグしてくれた。ディーンは最後の最後までジョークを言って私を笑わせてくれた。ダニエルとチェルシーは涙をこらえて笑顔で抱きついて「絶対、絶対にまた来てね！！理菜が来てくれなかったら私が日本に行くから！」と言ってくれたので、私も負けじと笑顔で「今度来る時には、もっと英語を喋れるようになって来るからね！！」と言って泣き笑いの顔でさよならの握手をした。



ホストファミリーのダニエルとチェルシー

私はこのニュージーランド研修で数え切れない程多くの感動と驚きそして温かい思い出をもらい、英語だけでなく様々なことを学んだ。

ニュージーランドに着いた時は不安と緊張で胸がいっぱいだったけれど、一日一日過ぎるごとにいつの間にかワクワクした気持ちに変わっていった。NZで過ごした10日間、それは時間にすれば短いのもかもしれない、でも私にとってはとても長くかけがえのない貴重な時間だった。そして今、私がそう思えるのはこの研修で私に関わってくれた人たち全ての優しく暖かい気持ちのおかげ。すばらしい自然と、心優しい人たちがいる。そんなNZに行けて本当に良かった。最後に、私を暖かく送り出してくれた家族、OIAの皆さん、一緒に旅してくれた楽しい9人の仲間と順子さん、グッドホールアランさん、久美子さん、そしてぎこちない私にいつも笑顔で優しく接してくれたデビー、ディーン、ダニエル、チェルシーに感謝したい。みんな本当にありがとうッ！！

NZ* 海外研修

岡崎北高校 1 年 上田 麻衣

7月27日から8月5日までの10日間、私は初めて海外を訪れました。初の海外がホームステイということでも緊張し、不安もありましたが、英語がちゃんと伝わるかな？NZではどんな生活をしているのかな？とワクワクした気持ちでいっぱいでした。

【28日】NZに到着してグットホール久美子さんと出会い、ホストファミリーとの待ち合わせ場所で、私たちが通うことになっていたMt.マウンガヌイカレッジへ向かいました。途中には放牧、山や海など自然に囲まれていました。カレッジに着きそれぞれのホストファミリーを待っていましたが、私のホストファミリーはカレッジの教師ということでお迎えが遅れてしまったので、卓大君のファミリーにお世話になりました。待っている間、卓大君のホストマザーやシスターと一緒に海へ行きました。広くてとても美しいビーチには冬にもかかわらずサーフィンをしている人やランニングをしている人がいて驚きました。



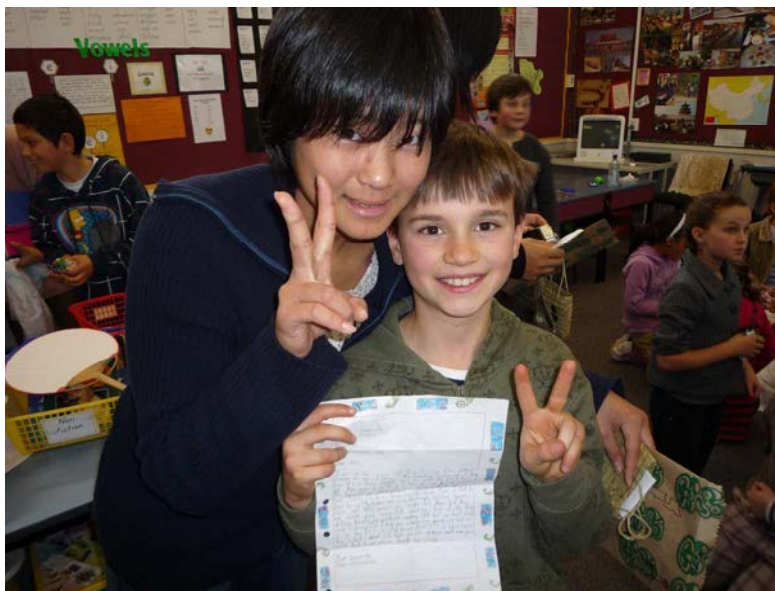
ビーチから帰るとホストファザーのマークが待っていてくれ「Nice to meet you Mai!」と言って握手してくれました。車に乗ると後ろからいきなり「Mai!」と声をかけられ、驚いて振り向くと交換留学でイタリアから来ているマーガリタでした。車の中での会話はとても早い英語で、聞き取ることが

* 広くて美しいビーチ *

が出来ず、不安になってしまいましたが、家に着きマザーのアンドリアと、子どものベイリー、リオムが温かく迎えてくれたので緊張がほぐれ、安心することが出来ました。夜にはマーガリタと会話をし、お互いの国の文化や言葉を教えあいました。私にとってヨーロッパの文化はとても新鮮でした。

【29日】午前にはカレッジで英語研修を受け、午後からは語学学校を訪問しました。サウジアラビアなどさまざまな国から年齢に関係なく集まって、英語を学んでいて素晴らしいなと思いました。私たちからの質問には一つ一つ丁寧に答えてくださりとても勉強になりました。なかでも環境に関する質問では、「環境に対する人々の関心が高く、だからこそNZには自然があふれている」ということを知りました。

【30日】この日は台風が来ていて朝から大雨で大変でした。午前は英語研修、午後はオマヌ小学校を訪問しました。簡単な質問を受けたり、日本から持っていった紙風船や折り紙などで遊びました。どの子も積極的に日本の伝統の遊びにチャレンジしてくれてよかったです。



* 一緒に遊んだペアの子 *

【31日】英語研修でパンケーキのようなものを焼き、チーズやジャムをつけて食べました。おいしかったです！午後はマウンガヌイ山に登りました。急な坂もあり、大変でしたがみんなで登ると楽しく、山頂からの眺めはとても素晴らしいものでした。日本にこんな素敵な景色があるのでしょうか？？帰ってからファミリーに山で撮ったたくさんの写真を見せると、「とても綺麗だね！」と言ってくれました。慣れてきて会話も増えて嬉しかったです。



* 頂上からの景色 *

【8月1日】この日は学校最終日。4日間授業をしていただいたエイミーに感謝します。あっという間の英語研修でしたが、日本では経験できない授業ばかりでとても充実していました。午後からはベイフェアへ行きショッピングを楽しみました。

【2日】この日がファミリーと過ごす最後の日…。アンドリアがお土産を買いに買い物へ連れて行ってくれました。キウイバードや花など NZ オリジナルのものをたくさん紹介してくれました。何が欲しいか、何を伝えたいか、辞書を片手にどんどん会話をしました。「珍しいものがあるね!」と伝えたかった私は単語を辞書で引いて伝えると、アンドリアは笑って「Mai, No. "unique"」と訂正してくれました。間違った単語を言ったのに、ちゃんと理解してくれたことが嬉しく、言葉は通じなくても気持ちは伝えられるということを知りました。お昼ごはんは私がお好み焼きを作りました。味は不安だったけど、みんなおいしいといって食べてくれました。夜のさよならパーティーはよさこいなどで盛り上がり、大成功でした!

【3日】ついにお別れの日。いつもより早く目が覚めてしまいリビングへ行くと、もうマークとアンドリアは起きていて、リオムはいつものように近くに来てくれて一緒に遊びました。こんな日が続けばいいのにと感じてしまうほど楽しくて幸せでした。アンドリアは仕事のため少し早くお別れとなってしまうしましたが、さよならのとき…ギュッと抱きしめて「You're nice girl. Your English very good.」とささやいてくれたのを今でも覚えています。泣きそうになるのを我慢してお互い笑顔で「Thank you very much! See you again!!」と言えました。その後マークの運転でカレッジまで向かいました。



* インマンファミリーと *



マーガリタと

今回のホームステイで今まで見たこともない素晴らしい景色を眺めたり、珍しいところへ行ったり、ファミリーからたくさんのことを学んだりすることができました。一日一日が充実し、毎日いろいろなことに出会いました。10日間という短い間でしたが今までの私の人生で最も輝いている思い出です。私を受け入れてくれたインマンファミリー -、久美子さん、純子さん、職員の皆さん本当にありがとうございました。

インマンファミリー、またいつか必ず会いましょう!!その時のため、英語の勉強頑張ります!!!

ニュージーランドでの 10日間

岡崎北高校 1 年 龍塚 咲穂

この 10日間では生きた英語や文化の違い・共通点、人の温かさなど、たくさんのことを学ぶことが出来ました。私はこの大きなチャンスを掴めた事を本当に嬉しく思います。

< 1 日目 >

飛行機の中では、期待に胸を躍らせている反面、自分の英語が通じるのか、ホストファミリーとしっかりと接することが出来るのかなど、心配なことだらけでした。ニュージーランドに近づくとつれてその不安は大きくなるばかりでした。

< 2 日目 >

午前 11 時ごろオークランド空港に着き、ここで久美子さんに会いました。優しそうな、温かい人だなあ、と思いました。NZ は高い建物が無く、ほとんどの家も一階建てなので、空が広く感じました。気候は、お昼時の暖かい時間帯に着いたので、少し肌寒いかなと感じるくらいでした。それからチャーターバスでマウントマンガヌイカレッジへ行くのですが、その道のりで牛がたくさんいるので、日本とはやはり全然違うと感じました。どこか、のんびりと時間が流れているような気がしました。カレッジについて、ホストファミリーと初めて会いました。ここからがホームステイの始まりです。私はホストマザーのダイナが迎えに来て下さり、明るく話しかけてくれたので、緊張はまだありましたが、不安が無くなりました。車に乗って 15 分ほどで家へ着き、そしたら 13 歳のエドリアナちゃん（あだ名エドリー）が迎えてくれました。お父さんのジェラルドと 16 歳のガブリエラちゃん（あだ名ガビー）も帰ってきて、みんな明るく接してくれるので私も積極的に話しかけようと思いました。英会話は少しでも分からない顔をすると言葉を変えてくれたり、ゆっくりしゃべってくれたりして、本当に優しい家族でした。

< 3 日目 >

NZ で初めての英語研修がありました。先生のエイミーはとてもしゃべりやすく、気さくな方でした。研修といってもそこまで堅苦しくなく、楽しく学ぶことができたので、4 時間あった授業もすぐに終わった気がしました。お昼ごはんはダイナが作ってくれたもので、ランチボックスにフルーツが丸ごと一個入っているところなど、日本とは全然違って驚きました。昼食後は語学学校へ。語学学校の人それぞれはそれぞれの目標・目的を持って NZ に来ているのですごく尊敬しました。日本人もいたので話が弾みました。家に戻ってからはエドリーと一緒にテレビを見ました。スポンジポップは NZ で人気らしく、エドリーも好きだといっていました。

あと、クイズ・ミリオネアも NZ バージョンでやっていてほとんど同じでとても驚きました。日本にもあるといったらエドリーも驚いていました。



《語学学校にて》

< 4 日目 >

この日の英語研修も単語学習をチーム対抗戦のゲーム感覚でやったり、劇を作ったりして、体を動かして英語を楽しく学びました。午後からはカレッジの隣にある小学校へ。質問のコーナーで勢いよく手を上げてくれて、なんて純粋なのだろうと感じました。一緒に紙風船をしたり折り紙で遊んだりして、特に折り紙は完成すると喜んでくれて、すごく可愛かったです。一時間は本当にあっという間でした。最後に手編みの小さいかばんと手紙とポストカードをくれて、とても嬉しかったです。家へ帰ってからはホストと買い物へ行き、そこで Hokey Pokey という NZ で人気というアイスを食べました。バニラアイスにキャラメルとサクサクしたものが入っていてとてもおいしかったです。



《オマヌ小学校にて》

< 5 日目 >

この日はマウント・マンガヌイへ山登りでした。私達が来たのはちょうど台風にあっていて雨が心配だったけど、無事晴れ、あの頂上からの絶景を見ることが出来ました。山登りの途中で NZ では人口よりダントツ多い羊を見ることが出来ました。近くの海も青く透き通っていて、また海岸にごみが落ちていないので、本当に美しい海でした。そして、夜ご飯はお好み焼き。ガビーも手伝ってくれて2人で作り上げました。みんなはしで食べてくれて、そしておいしいと言ってくれました。カビーも「I love お好み焼き！」と言ってくれて作ってよかったと思いました。



《ホストファミリー家にてお好み焼きを作ったとき》

< 6 日目 >

今日は英語研修最後の日。NZ の 2 週間の旅行計画を立てたりして、最後の授業まで楽しかった。家に帰ってからはガビーとエドリーのギターについて行って、『エリーゼのために』を弾いていたので、やはりベートーベンなど音楽は世界共通なのかな、と思いました。

< 7 日目 >

今日はホストファミリーと一日すごす日。ブローカーというのに挑戦したり、滝のようなところへ連れて行ってくれたり、ネットボールという NZ で有名な球技を見に行ったり買い物をしたり、ととても充実した一日でした。そしてさよならパーティー。スピーチはちゃんと気持ちが伝わるかどうか心配だったけど、すごくよかったと言われ、ほっとしました。本当に感謝していたので、さよなら、と思うと寂しくなりました。練習してきたダンスと歌は大成功に終わり、二人羽織も楽しんでもらえたかな、と思います。



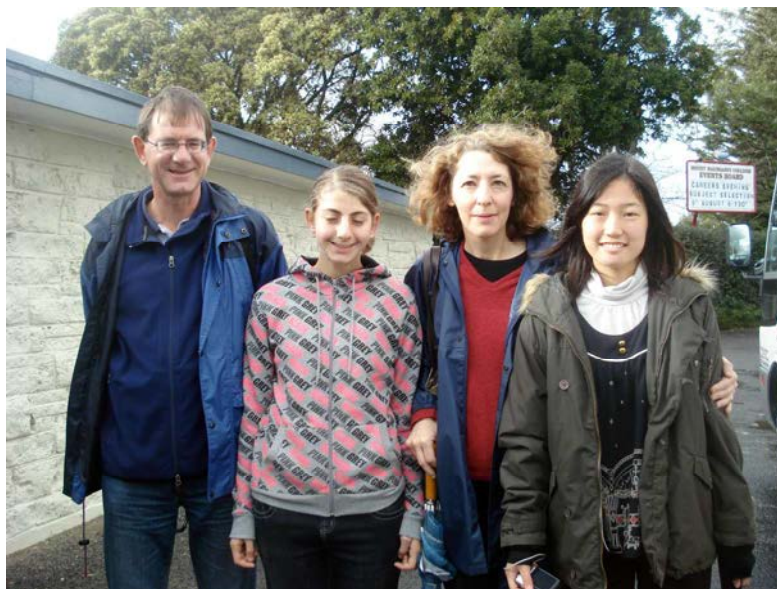
《左・姉ガブリエラとブローカーに乗って》《右・姉ガブリエラと妹エドリアナと一緒に》

< 8 日目 >

朝、これで本当にお別れかと思うと、寂しくてしょうがなかったけど、笑顔でバイバイすることができました。ガビーはまた日本に来る予定だと言っていたので、また会えたら最高だと思いました。

< 最後に >

この10日間英語だけでなく、文化の違いや、現地の人の優しさ、温かさに触れることが出来ました。特に、私がホームステイさせていただいたオメーラファミリーからたくさんことを学びました。もっと日本のことを伝えたかったけど、英語に出来ずに終わってしまったこともたくさんありました。なので、さらに英語を勉強して、また是非会いたいです。本当にこの研修に参加してよかったと思っています。この10日間のために、純子さんや久美子さん、セラさんなど、たくさんの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。この思い出は一生忘れません。



《お世話になったオメーラファミリー》

NZの人々と生活に触れた10日間

岡崎市 企画政策部広報広聴課 津浦純子

～はじめに～

私は今回、幸運にも引率者としてこのプログラムに参加することができました。しかし、決して英語が得意ではない私にとって、6泊7日のホームステイは少々不安でした。海外に行くたびに、せめて英語くらいは話せるようにならなければと思っていたのに、今まで実行してこなかったことを後悔しながら、とりあえず電子辞書を購入し、市役所の国際交流員であるセラ先生の事前英語研修に臨みました。

6月21日から始まった英語研修で、10人の高校生たちと共に学び、さよならパーティーで披露するパフォーマンスを練習しながら、次第にみんなの団結心が生まれてきました。縁があって出会ったメンバーですから、その和を大切にしたいと思っていただけに、これはうれしい変化でした。引率者としての責任を果たすと同時に、私自身も多くのことを吸収できればと思い、期待に胸ふくらませながら出発しました。

～ニュージーランドに到着～

セントレア空港からシンガポールのチャンギ空港まで⑥時間半、トランジットで約⑥時間、チャンギ空港からオークランド空港まで⑧時間半という大変な長旅を終え、ついにニュージーランドの地に降り立ちました。

日中は思ったより寒くなく、日本より太陽が眩しく感じました。空港からのメイン通りは信号機も少なく、時速100キロ制限で快適に進めます。左側通行で、日本車も多く走っていましたが、右折優先の交通ルールには違和感を覚えました。

しばらくすると、広大な牧草地に羊や馬、牛たちが放たれているニュージーランドらしい光景が目に飛び込んできました。ニュージーランドでは、人口よりも羊のほうが断然多いそうです。いくつかの牧草地、住宅区域、商業区域などを通り過ぎ、海に面したタウランガ市に到着。タウランガ市は、旧タウランガとマウントマウンガヌイが合併してできた市で、両地域はハーバーブリッジで結ばれています。オークランドに次ぐ“第二の帆のまち”と呼ばれる名のとおり、ハーバーブリッジ付近には数多くのヨットが並んでいました。また、タウランガ市は人口急増地域で、もう1本の橋を建設中でした。



あちこちで見られる羊の放牧

私たちが滞在するマウントマウンガヌイ地区は、タウランガ湾に突き出た半島にあり、その先端にはまちのシンボルである標高 232 メートルのマウンガヌイ山(通称マウアオ山)がそびえ立っています。そこから数キロメートルに渡ってビーチが続き、夏はマリンスポーツ、特にサーフィンを楽しむ人たちが賑わうようで、ビーチ沿いにはホテルやお洒落な豪邸が連なっていました。そんな素敵なまちですから、地元の人たちにとってマウントマウンガヌイは憧れの場所であり、住民たちの深い愛着も感じられました。



マウンガヌイ(マウアオ)山頂からの眺め

~理想的で温かいロバーツファミリー~

私のホストファミリーであるロバーツさんは、海まで歩いて 5分、カレッジにも歩いて 5分の、広々とした公園に面したモダンな家に住んでいます。ゆったりとした造りの家で、庭にはプールとトランポリンがあり、玄関口にはキャンピングカーがありました。

ロバーツファミリーは、とにかく絵に描いたような素敵な家族で、ほめたり感謝したりすることを普段の生活の中で自然に言葉にしていました。家族全員、毎日忙しくしているからこそ、食事はなるべく一緒にし、会話をとても大切にしていました。誰が言うのでもなく、



食事の準備や後片付けをみんなで手伝うという姿は印象的でした。そして、出かける時や帰ってきた時、おやすみの時の親子のスキンシップは、愛情にあふれる素敵な光景でした。

ロバーツファミリーと共に過ごした 7 日間は、私にとって、何物にもかえがたい貴重な経験でした。普通の海外旅行では、観光地を巡ることが主で、外国の生活そのものを肌で感じ、異国の人たちと心を通わせるようなことはできませんから...

ら...

ロバーツファミリーはみなとても優しく、温かく迎えてくれたので、私もお客様として変に気を遣うのではなく、家族の一員として積極的に飛び込んでいこうと思い、ほとんどの時間をリビング・ダイニングルームで過ごしました。

お父さんの Mark(マーク) や長男の Kris(クリス)とは、海岸へ飼い犬のジェスの散歩に出かけました。海は荒れていましたが、散歩の途中で見た朝焼けはとても美しかったです。ニュージーランドでは、15歳から運転免許の取得ができるらしく、クリスはまさに免許を取得中でした。

お母さんの Kathy(キャシー)は、知的で明るく、愛情あふれるとても素敵な女性です。フィジカルセンターで、フィジオセラピスト(物理療法士)として働き、ガールスカウトのスタッフとしても活躍しています。とにかくいつも忙しいので、朝はいつも1日の家族の日程をメモして渡してくれました。キャシーは、ガールスカウトの交流事業で、来年の4月に姉妹都市である茨城県日立市に来るそうで、私の日本語レッスンを真剣に受けてくれました。一緒に料理をしたり、ホットプールに行ったり、マオリの伝統的なダンスで使うポイという道具を作ったりしながら、つたない英語ではありましたが、会話を楽しむことができました。

長女の Laura(ローラ)はとても優しく、いつも“何か困ったことはない?”と私を気遣ってくれました。毎日、ローラと友達のエイミーと3人で一緒にカレッジに通い、帰りはローラが私の教室まで迎えに来てくれました。大雨のなか、ずぶ濡れになりながら走って帰ったこともありました。一緒にトランプやゲームをしたり、ポイダンスやニュージーランドのことをいろいろ教えてくれたりして、ローラと過ごした時間は本当に楽しくリラックスできました。ローラは、まるで年の離れた妹のように思えました。

少しの間でしたが、最後に、マオリ族にとって“永遠の友情”を表す形のネックレスとローラ手作りのブレスレットをプレゼントされ、涙が出そうなくらいうれしかったです。



近くのビーチでの散歩



ロバーツファミリーと

～生活・文化の違いを実感～

ホームステイをしてみて、日本の感覚との違いを感じました。言葉ひとつとってもそうです。日本では普通の、“いただきます”や“おかえり”、“よろしくお願いします”などの言葉が、英語には直訳する言葉がないことには驚きました。

それから、ニュージーランド人はとにかく電気や水道を大切に使うことに感動しました。ほんの少しの時間でも、人のいない間は部屋の電気をこまめに消します。皿洗いはほとんど

食器洗い乾燥機でしますが、鍋やフライパン、少しの食器類を洗う時などは、日本のように水を流しっぱなしにはしません。シンクにお湯を張り、そこでブラシを使って洗い、最後はさっと水を流して拭いてしまうのです。お湯は電気で沸かしているため、シャワー時間は約5分を目安にしています。日本は、環境に配慮といいながら、電気や水に関してはあまり関心が高くないように思います。ニュージーランド人の感覚を、少しは見習うべきだと思いました。

そして、ニュージーランドで最も人気のあるスポーツと言えば、ラグビーです。滞在中、ニュージーランドとオーストラリアと南アフリカの代表チームが戦う“TRY NATIONS”が中継されていました。ニュージーランドの代表チームは、言わずと知れた“ALL BLACKS”。バーや集会施設に大きなスクリーンがあって、多くの人が集まって盛り上がっていました。気迫のこもった質の高いプレーの連続に、私もALL BLACKSファンの一員になってしまいました。試合前に相手チームに向けて見せるマオリ族の戦闘の踊り“HAKA(ハカ)”は、男らしく格好良かったです。

～英語研修～

マウントマウンガヌイカレッジでは、チャーミングな Ammie(エイミー)先生のもとで、とても楽しく英語を学ぶことができました。ニュージーランドの先住民族であるマオリの伝説は、それをもとにグループで寸劇をして大変な盛り上がりだったので、一生忘れられないものとなりました。伝説の主演として登場するマウアオという山にみんなで登り、まちと海を一望した時、その地形の素晴らしさには感動しました。滞在中は残念ながら雨が多かったのですが、登山の時だけ青空が広がったのは本当に奇跡的でした。

ニュージーランドの先住民族はマオリ族で、今では人口の14%を占めるだけとなったそうですが、カレッジには結構いたように思います。マオリ語は英語とは全く異なりますが、ニュージーランドの地名は、NGATEA(ナティア)、KATIKATI(カティカティ)など、マオリ語に由来するものがほとんどでした。

最後に訪れた ROTRUA(ロトルア)には、マオリ族が多く住み、そこで伝統的なマオリのショーを観ることができ



マオリショー

ました。TIPUIA(ティプイア)では、シェインさんというガイドが私たちに同行し、マオリの文化を丁寧に教えてくださいました。シェインさんは、文字を持たないマオリの子どもたちは、五感を使って英語を覚えると言いました。そう言えば、日本人は視覚と聴覚しか使っ

ていないように思い、英語を学ぶヒントをもらった気がしました。

オマヌ小学校に訪問した時は、それぞれの歌を披露し、日本の伝統的な遊びである折り紙、紙風船、剣玉などで一緒に遊びました。今年は北京オリンピックが開催されるため、中国のことを勉強していて、日本のことはほとんど知らない子どもたちでしたが、ピカチュウやキティは人気がありました。

語学学校訪問では、短期英語留学している世界各国の生徒さんたちと交流ができました。日本人も7人いて、大学を休学してきた学生のほか、主婦や定年退職後に家族をおいて一人で来た方もみえました。まさに人との交流に国境はない、と感じました。



オマヌ小学校の子どもたち



語学学校の留学生たちと

～最後に～

今回のプログラムに参加させていただいて、国際交流は大それたものではなく、「伝えたい」「知りたい」という単純な欲求から始まるものだと感じました。そして、国際交流の意義は、他国のことを知ったり外国人と触れ合ったりすることだけではなく、“自国のことを知る”ことでもあると思いました。何気なく生活をしていると、自国の文化を意識することはないので、今回は、日本の文化を見つめ直す良い機会にもなりました。

このような素晴らしい経験ができ、無事にプログラムを終えることができたのも、ニュージーランドでオーガナイザーとして私たちをサポートしてくださった、グッドホール夫妻のアランさん、久美子さん、娘のジーンちゃん、現地で英語を一生懸命に教えてくださったエイミー先生、日本で英語研修をしてくださったセラ先生、私たちを受け入れてくださったホストファミリーの皆さんのおかげと心から感謝いたします。そして、楽しく、素晴らしい時間を共に過ごすことができた10人の仲間たち、本当にありがとうございました。最初は不安なこともありましたが、最後には全員がホストファミリーとの別れを惜しみ、みんな笑顔で日本に帰ってこられたことを本当にうれしく思います。

またいつか、夏のニュージーランドを満喫しに行って、今回出会った素敵なNZの人たちと感動の再会をしたいと思います。



この素晴らしい出会いを忘れません...。
ありがとう！

研修参加者名簿

- 1 . 鍋島 実苗希 (岡崎商業高校 2年) 岡崎市大平町
- 2 . 加藤 卓大 (豊田西高校 1年) 岡崎市羽根北町
- 3 . 加藤 渚 (豊田西高校 2年) 岡崎市舳越町
- 4 . 若杉 梨央 (光ヶ丘女子高校 2年) 岡崎市赤浜町
- 5 . 水野 美咲 (西尾東高校 1年) 岡崎市牧御堂町
- 6 . 中田 望月 (岡崎北高校 1年) 岡崎市上里
- 7 . 山田 美里 (岡崎北高校 1年) 岡崎市矢作町
- 8 . 塩原 理菜 (御津高校 1年) 岡崎市大門
- 9 . 上田 麻衣 (岡崎北高校 1年) 岡崎市真伝町
- 10 . 龍塚 咲穂 (岡崎北高校 1年) 岡崎市戸崎町

引率 津浦 純子 岡崎市 企画政策部 広報広聴課主任主査

受入団体

若宮商会 Mr.Alan Goodhall & Mrs. Kumiko Goodhall

TEL +64-7-575-5295

ADD 189 Valley Road, Mount Maunganui, New Zealand

マウント マウンガヌイ カレッジ Mount Maunganui College

TEL +64-7-575-3096

ADD Maunganui Road, Mount Maunganui, New Zealand

旅行取扱社

トップツアー株式会社 豊橋支店

豊橋市藤沢町 141

TEL 0532-47-0109

お世話になった方々

Mayor Stuart Crosby

Mr. Terry Collett

Mr.Geoff Butler

Ms.Ammie Davies

Mr.Rex Allot

Ms.Linda Scott

タウランガ市長

マウント・マウンガヌイカレッジ校長

マウント・マウンガヌイ語学学校長

マウント・マウンガヌイカレッジ研修担当講師

オマヌ・スクール校長

鹿牧場経営者

ホストファミリーリスト

Mr.Cochrane Terry

Ms.Cochrane Sue

17 Ascot Place,Mount Maunganui

(鍋島 美苗希)

Ms.Townsend Jane

234 Valley Road,Mount Maunganui

(加藤 卓大)

Mr.Efford Grant

Ms.Efford Karen

23 Alice Way, Papamoa

(加藤 渚)

Mr.Merrett Ross

Ms.Cosgriff Marg

30 Laguna Key, Papamoa

(若杉 梨央)

Mr.Mackie Phil

Ms.Mackie Heather

19 Monaco Key, Papamoa

(水野 美咲)

Mr.Linehan Paul

Ms.Philips Justine

28 Pacific View Road, Papamoa

(中田 望月)

Mr.Parkes Rob

Ms.Parkes Trish

42 Waitui Grove, Mount Maunganui

(山田 美里)

Mr.Busch Dean

Ms.Busch Deborah

44 Keepa Close, Papamoa

(塩原 理菜)

Mr.Inman Mark

Ms.Inman Andrea

15 Ella Place, Papamoa

(上田 麻衣)

Mr.O'Meara Gerald

Ms.O'Meara Dinah

12 Newport Key, Royal Palm Beach, Papamoa

(龍塚 咲穂)

Mr.Roberts Mark

Ms.Roberts Kathy

185 Valley Road, Mount Maunganui

(津浦 純子)

タウランガ市の概要

タウランガ市は、ニュージーランド北島の北東部にある都市で、マオリ語で「カヌーの停泊場所」を意味します。商業港である一方で、温暖な気候と美しい自然からリゾート地・保養地としても知られ、マリンスポーツやフライ・フィッシングの拠点としても有名です。

位置 ニュージーランドの北島の東海岸にあるプレンティ湾に面している。

オークランドから 207 km、ハミルトンから 107km、ロトルアから 85km の距離にある。

人口 約 103,900 人 (2005 年 6 月)

面積 127.42 平方メートル

気候 冬は温暖で、夏はすごしやすく、湿度の低いところである。

また、ニュージーランドの中でもっとも日照時間の長い地域のひとつである。

年間日照時間：2,200~2,400 時間

年間平均総雨量：1,349mm

年平均気温：14.2

歴史 タウランガと名づけたのは、ニュージーランドの先住民のマオリ人である。

この土地は、島や海を一望できるところから近隣のマウント・マウンガヌイとともにマオリ人の拠点となっていた。